

【児童への話】

2学期が始まり、2か月が経ちました。明日からはもう11月です。11月18日と19日の学芸会に向かって、どの学年も熱心に練習していますね。校長先生は今からワクワクしています。どの役もなくてはならない大切な役です。表現の楽しさをたっぷり味わってください。

さて今日は、「日本語の難しさとすばらしさ」について、お話しします。

まず、これから見せる文を読んでみてください。ただし、口に出してはいけません。心の中でじっくり読んでください。1年生も、読める部分を読んでくださいね。これです。

「今日の日曜日は学校がある日だから、明日のふりかえ休日に日記を書こう。」

この文を、ふつうにスラスラ読めた人は手を挙げてください。はい、降ろしてください。

実はこれは、外国の方が読むのはとても難しい文です。なぜか分かりますか？それは、7回も出てくる

「日」という漢字の読み方が、全部違うからです。確かめてみてください。

「**きょう**の**に**ちよう**び**はがっこうがある**ひ**だから、**あした**のふりかえ**きゅうじつ**に**に**つきをかこう。」です。ぜんぶ読み方が違いました。ちなみに、「今日（きょう）」や「明日（あした）」は、この組合せのときだけに読む特別な読み方で、熟字訓といいます。覚えておくと少しお得です。

日本語は、世界にたくさんある言語の中でも、かなり難しいと言われている言語です。それには、よく言われる2つの理由があります。

ひとつ、日本語を書くときに、漢字とひらがなとカタカナの3種類を使い分けていること。外国の方が見ると、呪文のように見えるそうです。

ふたつ、日本語の言葉そのものの数がとても多いこと。世界の言語の言葉の数は、フランス語で2,000語、英語で3,000語、ドイツ語でも5,000語と言われていますが、日本語にはなんと10,000語以上あるとされています。耳に聞こえる音が同じ読みでも、違う意味だったり違う文字だったりするので、外国の方が日本語を勉強するときにとて難しく感じるそうです。日本語って、私たちは何気なく使っていますが、実はとても難しい言葉なんですね。

そんな日本語ですが、その難しさと表現の豊かさのぶん、上手に使えるようになると、自分の気持ちをよりしっかりと伝えたり、相手の心がよりよく分かったり、長い間人の心を打ち続ける文学や詩、話芸を生み出したりすることができる、とても優れた言語です。番町小の皆さんは、正しい日本語を身に付けられるよう、学習をしっかりとするとともに、お友だちや先生と話すときの言葉に気を付けるようにしてください。美しい表情、美しい心は、美しい言葉から生まれます。よく覚えておいてください。

今日は、「日本語の難しさとすばらしさ」についてお話ししました。

【本講話について】

学芸会の練習が熱を帯びています。劇のセリフを口ずさみながら登校してくる子を見ると、子どもは「自分を表現したい、見て欲しい」と心から思っていることが分かります。セリフの多少に関わらず、一言一言を大切に精一杯自分を表現して、心地よさを味わってくださることを願っています。

明日から11月となり、令和4年度の学校生活も残り5か月となります。朝晩の気温の差が激しい時期でもありますので、服装の調節を含めたお子様の体調管理をお願いします。学芸会当日、子どもたちの最高の姿をご覧いただけるよう、教職員一同励んでいきます。